

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	城陽市立ふたば園		公表日 2026年3月26日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点	
環境 制 整 運 営 ・ 体	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	6	1	・教材教具は持ち込まず園でできる工夫について検討している。 ・園に特別道具を持ち込むことはしていない。 ・必要に応じて療育場面で使用しているスケジュールの利用について共有している。	・訪問支援に使用する教具教材については、園の環境を活かした支援を基本としているが、支援の幅を広げるため、今後は他園での工夫事例や教材活用の情報収集を行い、必要に応じて共有していく。
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	・業務の関係で保護者の希望に応じてすぐに訪問に行けないことがある。	・業務状況により希望日に即時対応できない場合がある。今後は、業務調整や体制の工夫により、より柔軟な対応ができるよう検討していく。
業務 改 善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	0		・職員全員が主体的に参画できる機会をさらに増やし、業務改善への意識を一層高めていく必要がある。
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	2	・保護者の意見を直接聞き、早めの対応に取り組んでいる。	・評価表としての活用をより体系的に行い、継続的な改善につなげていく必要がある。
	5	従業者の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・日々共有している。	・従業者の意見共有は日常的に行っているが、内容の整理や記録が十分でない場合があるため、今後は業務改善につながる形での整理を行っていく。
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	7		・第三者評価については十分に実施できていない。今後は外部の視点を取り入れ、客観的な評価を業務改善に活かす仕組みづくりを検討していく。
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	3	・自己研修にて研修や学会に参加している。	・自己研修に依存する部分が多いため、今後は研修内容の共有や法人内研修の充実を図っていく。
適 切 な 支 援 の 提 供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	7	0		・分析結果をより分かりやすく整理し、支援計画に反映させる工夫を進めていく必要がある。
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	1		・情報共有のタイミングによっては十分な検討時間が確保できない場合があるため、検討体制の工夫が必要である。
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	6	1		・訪問先施設との連携は行っているが、意向の反映について、より丁寧な確認や共有の仕組みを整えていく必要がある。
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0		・忙しい時期には計画の確認が形式的になる場合があるため、確実な共有方法を検討していく。
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0		・評価結果の整理や職員間での共有方法について、より統一した取扱いが求められる。
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0		・ガイドラインを踏まえた計画作成は行っているが、支援内容の具体性に職員間で差が生じることがあるため、記載方法の統一を進めていく。
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	・日々、業務のなかで予定を園と共有することが難しく頻度があげられない。	・日常業務の中で十分な共有時間を確保することが難しい場面があり、情報共有の工夫が必要である。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0		・事前打合せは行っているが、限られた時間の中で十分な確認ができない場合もあるため、効率的な打合せ方法を検討していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0		・振り返りは実施しているが、内容の記録や次回支援への反映が十分でない場合があるため、活用方法を見直していく。
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	7	0	・担任の先生の取り組みについて確認している。	・より深い理解のため、事前情報の整理や確認を充実させていく必要がある。
18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	7	0		・記録内容の質や視点にばらつきがあるため、記録の書き方について共通理解を図っていく。	
19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0		・モニタリング実施時期にばらつきが生じることがあるため、計画的な実施を意識していく。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0		・日程調整が難しい場合があるため、参加方法や連携手段の工夫が求められる。
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0		・連携の頻度や方法に差があるため、より安定した連携体制を整えていく必要がある。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0	・子どもの課題や状況について必要時、連絡を取り合っている。	就学時の情報共有は行っているが、限られた期間での対応となることが多いため、早期からの準備を意識していく。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	6	1	・自己研修により必要な研修を受けている。 ・嘱託医より専門的な助言を受ける機会がある。	・参加できる職員に限られるため、学びを事業所全体で共有する仕組みを強化していく。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	6	1	・参加している。	・参加内容を事業所内で十分に共有できていない場合があるため、情報共有を進めていく。

携	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	・時間を設けている。	・保護者との情報共有は行っているが、時間確保が難しい場合もあるため、より効率的な共有方法を検討していく。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2	・保護者を対象にしたこどもの理解を深める学習会を行っている。	・参加できる保護者が限られるため、多様なニーズに応じた支援方法を検討していく。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0		説明の理解度の確認が十分でない場合があるため、説明後のフォローを工夫していく。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	7	0		・訪問先への説明は行っているが、継続的な理解促進のため、定期的な確認や説明の機会を設けていく。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0		・意向確認は行っているが、より丁寧な聞き取りを心がけていく。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	7	0		・計画内容の理解をより深めてもらえるよう、説明方法の工夫が必要である。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	7	0	保護者からの希望により、随時個別の時間を取り相談を行っている	・継続的な支援につなげるため、記録や共有の充実を図っていく。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	2		・今後はニーズを踏まえた交流支援の在り方を検討していく。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0		・周知方法についてさらなる工夫が必要である。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	4	・ホームページを作成し園の方針や活動概要を掲載している。 ・ホームページはあるが日々運用しているとは言えない。	・更新頻度が十分とは言えないため、定期的な情報発信を検討していく。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		・職員全体での再確認や意識向上を継続して行っていく。
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0		・より分かりやすい伝達方法について、引き続き検討していく。
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	7	0	・電話対応など迅速に対応できるよう心がけている。 ・訪問のみではなく見学の受け入れや電話連絡等、必要に応じて行っている。	・相談内容や対応経過の記録方法にばらつきがある。今後は、相談対応の記録様式や共有方法を整理し、継続的な支援につなげられる体制を強化していく。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	6	1	・担当の職員の方とこどもの様子、支援について情報共有をしている。	・全てのケースで十分な時間を確保できていない。今後は、訪問後の振り返りの機会をより計画的に設け、情報共有の質を高めていく。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	7	0		・口頭での説明が中心となっており、支援内容の整理や振り返りが十分でない場合がある。今後は、記録や文書を活用し、家族が支援内容を理解しやすい形で共有を検討していく。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		・職員間での理解の深さに差が生じる可能性がある。今後は、定期的な確認や研修を通じて、意識の統一を図っていく。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	7	0		・継続的なフォローや助言内容の整理が十分でない場合がある。今後は、助言内容を記録・共有し、訪問先との連携をより深めていく。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0		・実際の場面を想定した訓練や振り返りが十分でない。今後は、訓練内容の見直しや職員への周知方法を工夫し、実効性を高めていく。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	・避難訓練を実施している。 ・職員に向けて緊急対応研修を実施している。	・ヒヤリハット事例の活用が十分とは言えない。今後は、事例の共有や再発防止策の検討を通じて、安全管理体制の強化を図る。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	・随時ヒヤリハットを更新し事業所内で共有している。	・再発防止策の検討や振り返りが十分に行われていない場合がある。今後は、定期的な検討の場を設け、支援の質の向上につなげていく。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0		・研修は実施しているものの、日常支援への落とし込みが十分でない部分がある。今後は具体的な事例を用いた研修や振り返りを行い、実践力の向上を図る。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	3	・保護者に説明はしているが、計画に記載はしていない。	・やむを得ず身体拘束を行う場合の方針を定め、保護者への説明や計画への記載を行っている。